

直売所を通じた地域振興

—ファーマーズマーケット「おうみんち」の取組み—

研究員 山田祐樹久

近年、地域農業の抱える課題は多様化しており、農業者の高齢化や離農が進むなかでの生産基盤の維持とともに、地域農業の魅力を外に向けて発信し、人を呼び込んでいくことも重要となっている。

このような状況のもと、滋賀県JAおうみ富士のファーマーズマーケット「おうみんち」(以下「おうみんち」)は多様な事業を展開し、地域農業および地域社会の活性化に大きく貢献している。以下では、農業体験と海外インバウンド対応の取組みを紹介し、直売所を通じた地域振興について示唆される点を述べる。

もちろん、直売所の基本的な機能である「農家の販売先」かつ「消費者の購入先」という点についても、大変充実している。土日には開店前に長蛇の列ができる人気の直売所であると同時に、出荷者農家の品質向上や環境配慮型農業の推進に取り組むなど、地域社会への貢献は多岐にわたる。

1 農業体験を通じた地域農業の活性化

農業に興味のある層は、都市・農村、老若男女問わず幅広く存在している。おうみんちの農業体験の特徴は、農業に関心を持つそれぞれの層に合わせて、多様なプランを提供していることである。例えば1日農業者体験を行う「青空フィットネスクラブ」は直売所に隣接した体験圃場等で開催され、県内外から多数の参加者がある。ほかにも、近隣地域のお年寄りや子育て世代、親子向けの農業体験なども実施している。

ここで特に注目したいのは、それらをきっかけに農業を実践してみたいと考える参加者をサポートする取組みである。

このような参加者には、体験圃場の近くにある「おうみんち農園」を提供している。農園は100の圃場に区画分けされており、それぞれの圃場に番号が振ってある。この圃場で、利用者は家庭菜園を楽しむことができる。農園の土壌改良等はおうみんちが行っており、定植から収穫までのプロセスをバックアップしている。農作業を通じ、農業を実践する楽しさを一層知ってもらうと同時に、販売農家になるための技術指導を受けることもできる。

このような農業体験は、1日単位のものから新規就農に至るまでのステップが体系化されている。多様なニーズに応じることができるとともに、地域内外から広く人気を得るとともに、管内の農業者育成にも貢献している。

2 国内外からの観光客の呼び込み

おうみんちは、単に滋賀県を訪れる観光客の買い物先にとどまらない。「地域の食」を丸ごと味わえる体験プランも用意されている。収穫作業を体験し、収穫した野菜を用いておかずを作り、自然のなかで自作のお弁当を食べるといったプランである。

収穫体験には工夫が凝らされている。おかず作りの原料となる野菜が、体験圃場のそれぞれの畝に1種類ずつ栽培されている。観光客はそれぞれの畝から、少しずつ野菜を収穫していく。すると、おかず作りに必要な野菜

が全てそろろう。それを調理して食べるので、収穫から食事までを一貫して体験することができる。このプランは食育に資すると同時に、おうみんち1か所に長時間滞在し、観光を楽しむことを可能にしている。ほかにも、特産品である「なばな」を使った染物体験を行うプラン等も提供されており、地域の文化に触れることもできる。

これらの魅力もあり、国外からも多くの視察団や観光客が訪れる。滋賀県という場所柄から、京都・大阪といった大観光地への観光客を、いかにして呼び込むかも鍵となる。そこで職員が自ら、教育旅行先を検討している海外の学校などに出向き、どのようなニーズがあるのかを徹底的に吸い上げ、それを盛り込んだ観光プランを作成している。(公社)びわこビジターズビューローとの連携や、地域の有名観光ホテルに体験プランを提供するなど、多様な主体とタイアップして観光客の呼び込みにも力を入れている。

ほかにも、おうみんちは近隣の観光地にケータリングを実施している。また、朝食等の食事をとることがおろそかになる世代に向けては、所有するキッチンカーにより、地域の食を提供している。さらに、近年増加するイスラム圏からの観光客のニーズに応じ、ハラール仕様のキッチンカーも構想している。ハラールフードは調理過程でキッチンを独立して設ける必要があるためである。ハラール仕様のキッチンカーは移動ハラールキッチンとして活躍するだろう。

3 取組みから得られる示唆

おうみんちの成功要因は、地域住民から見れば当たり前のものを、ニーズとリンクさせることで、魅力ある資源として活用していることではないだろうか。

少し視点を広げると、都市生活者にとって、自然豊かな土地に足を運び、農業体験や文化に触れることは、大変魅力的である。また、都市・農村問わず「農業をやってみたいけれど、自力では難しい」と考える非農家は数多く存在する。おうみんちは特産野菜や体験圃場を生かし、初歩的な農業体験から家庭菜園まで、多様な取組みを通じて、これらのニーズに対応している。

^(注)観光庁の調査によれば、海外から日本を訪れる観光客の最大の目的は「日本の食事」である。おうみんちでは収穫から食事まで、一貫して日本食を体験することができる。ほかにもケータリングサービスにより、近隣の観光地等に向けて地域の食を提供している。

このようなプランを旅行客に提供するに当たっては、地域の多様な主体と積極的に連携している。さらに職員自らが海外に足を運び、ニーズの吸い上げを行っており、海外からの観光客の呼び込みに力を入れている。

ここまで見てきたように、おうみんちは、地域の資源を生かした取組みを国内外に向けて実施し、管内地域の活性化に貢献している。直売所は、地域農業と内外の消費者とを結ぶ結節点でもある。農業への関心の向上や地域の魅力の発信において、直売所が重要な拠点となることを、おうみんちの取組みは示唆しているのではないだろうか。

(やまだ ゆきひさ)

(注)観光庁(2011)「博物館等の文化施設における外国人旅行者の受入に関する調査業務報告書」